

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 長井 誠

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

学部では主として動物の感染症に関する授業・実習、大学院では動物疾病制御学の感染症学分野を担当している。獣医学は進歩を続けているが、昨シーズンは過去最大件数となる高病原性鳥インフルエンザが発生し、豚熱も豚への感染リスクとなるイノシシへの対策に苦慮しており、アフリカ豚熱やランピースキンといった海外悪性伝染病が我が国の近隣まで進出している。また伴侶動物においては感染症の発生は少ないものの、シェルターや集合施設では依然として感染症が流行している。このような状況から感染症の制御に貢献できる獣医師が求められており、それに対応すべく自ら考え、行動できる人材の育成を教育の責務として取り組んでいる。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
家畜伝染病学Ⅰ	獣医学科	必修	4	134
家畜伝染病学Ⅱ	獣医学科	必修	4	132
家禽疾病学	獣医学会	必修	4	134
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	12
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	4
卒業論文研究	獣医学科	必修	6	4

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

学部教育では主として動物の感染症に関する授業・実習、大学院における教育では動物疾病制御学の感染症学分野を担当している。獣医学は進歩を続けているが、牛のランピースキン病が2024年11月に国内で初めて発生し、高病原性鳥インフルエンザは相変わらず冬季に猛威を振るい、豚熱も豚への感染リスクとなるイノシシの感染拡大は続いており、海外悪性伝染病の代表であるアフリカ豚熱が我が国の近隣まで進出している。また伴侶動物においては感染症の発生は少ないものの、シェルターや集合施設では依然として感染症が流行している。このような状況から感染症の制御に貢献できる獣医師が求められており、それに対応すべく自ら考え、行動できる人材の育成を教育の責務として取り組んでいる。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

ある時突然全く知られていなかった新しい感染症が発生したり、清浄化されて発生がなかったものが再び発生したり、感染症は今後も人類を含む動物全体の脅威になり続けるだろう。しかし過去には、人類にも健康被害を与えてきた牛結核と牛ブルセラ症は我が国において我々の先輩獣医師によって清浄化が成し遂げられた。そこで今の学生たちには、現在大きな問題である高病原性鳥インフルエンザや豚熱、新たに侵入したランピースキン病などについて、撲滅・清浄化を目指して的確に取り組める人材に育ててほしいと考える。獣医師しかできない社会的に大切な役割を果たしていく、これが獣医師のあり方と考える。担当させていただく授業や実習を通して獣医師としての基礎を学んでいただくとともに、この信念に基づいた教育を展開することで社会貢献のできる獣医師を育成していきたい。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

双方向の教育体制を構築するため、學理を利用してディスカッションを行う。毎回の授業で學理を利用した小テストを実施し、授業の理解度を把握する。

(2) ICTの教育活用

有

學理を用い、その機能を最大限に活かし、授業や実習に利用する。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

見たことのない疾病を覚えるのは至難のことと思うため、とにかく実感してもらうよう、授業では写真スライドをできるだけ多く活用し、実際の病性鑑定に則した材料を想定して、診断に至るまでの一連を理解して行うことができるようになることを理想としている。初めて知る疾病であっても覚えやすいよう、一つのことを他のことと絡めて覚えることで理解度を高めようと努力している。

(2) 学生の理解度の把握

B

毎回の小テストは理解度の把握に有用であり、今後も継続する。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

C

自学自習を行ってもらうことの難しさはこれまでの課題であった。予習して授業を受けると理解度が増すと考えており、資料をなるべく早く學理にアップしているが、なかなか予習を促すことができていない。初めての疾病と教科書で出会うのはあまり馴染めないものかと思うが、簡単にまとめたプリントを配布してあるので、その活用がポイントと考えている。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

授業の終わりに質問をいただき、理解度を深めるのにより機会と感じた。定期試験の直前の質問が多いのが現状だが、いつでも質問をしてもらえるような授業の雰囲気を作っていきたいと考える。

(5) 双方向授業への工夫

B

成績評価の一環として行っている小テストは、理解度を確認しながら授業を進めることができ、双方向授業における有用な手段と考えている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

過去の出題傾向を分析し、重要なところを示して授業を行っている。出題傾向は16年分の一覧表を作成し、授業中に提示してその対策を行っている。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

授業に用いている資料について要望をいただくことがよくあり、それに従って修正を重ねている。自学自習の実施については依然、低迷しているが、なかなか予習を促すことができていない。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

授業資料とスライドは修正を重ねた結果、よりよいものになっていると思う。
予習を促すのは難しいと感じている。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

予習は、内容を簡単にまとめたプリントを授業の前にざっとでも見てもらうことを周知しようと考えている。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

これまでも行ってきたが、授業資料をできるだけ早く學理にアップして授業に活用してもらうことと小テストを行うことで復習の機会を与えることが成績向上につながる取り組みだと考えている。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

私がコーディネーターを務める教科の定期試験ではほぼ全員が合格点を獲得しているので、それなりの効果があったと思っている。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

FD研究会には基本的に毎回参加することを心がけている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

定年退職まであと2年となってしまう、悔いのないように毎回全力で努力を重ねるのみと考えている。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

なし